

11月21日 AM6:30、3台の車に同乗して13名が松本を出発。天候は、曇天模様。山麓は雪を被り、その上部は灰色の雪雲に覆われている。山麓道路から溪谷沿いの蛇行道を中房温泉へ向かう。AM7:45 登山口手前の駐車場に到着。ここで3名と合流して総勢16名となり AM8:30 全員冬山装備を着用して、出発する。



森林帯の中、新雪降り積もる急坂を登る



雪の尾根道を行く



静かな快晴の朝を迎える。

森林帯の中、新雪降り積もる急坂を第一、第二ベンチと、30分毎に小休止をしながら登る。PM12:00 合戦小屋に到着する。狭い小屋内で昼食を摂り、PM12:40 心身をリフレッシュして稜線を目指す。低木帯を20分程登ると、主稜線に続く尾根に登り出る。あたり一面冷たい霧が覆い、遠望は効かない。最初夏道を辿り、しばらくで雪斜面のトラバースを避けて尾根道を登る。急な勾配を登り詰め PM2:30 燕山荘へ辿り着く。

有明山の彼方から太陽が昇る



槍ヶ岳の先峰が薄紅色に染まる

早速宿泊手続きをして、室内で暖をとる。この日、頂上登頂を諦め、皆で食堂のストーブを囲み、雪山登山や高山病の注意事項を講習。その後、飲食類を味わいながら、親睦会となった。夜が訪れると霧が晴れ、天空に星々が瞬き始める。西南方向に三日月が照り輝き、槍ヶ岳の輪郭をシルエット状に描き出しながら、彼方に沈んでいく。室内では、各人自分の布団に包まり、明日の天気を期待して、就寝する。



朝陽に映える燕岳



見事燕岳山頂に登頂



11月22日 AM5:45 起床。静かな快晴の朝を迎える。AM6:20 有明山の東方向、眼下に広がる大雲海を照らしながら、太陽が昇る。槍ヶ岳の先峰がまず薄紅色に染まり、徐々に周囲の山々が明るく輝き始めた。朝食後、冬山装備を着用し、AM7:45、新雪を踏んで山頂を目指す。振り返ると、真白な槍ヶ岳がひととき高くすくっと天を突き、他の峰々を従えるように堂々と聳えている。凍てついた岩道にアイゼンを効かし、林立する花崗岩石の間を通り抜けると、AM8:30 燕岳山頂 2763mに全員、見事登頂する。「おめでとう！」

山頂からは、北方に幾つもの真白な頂が望まれ、その山々の名を確認する。剣、立山、針の木、蓮華岳、鹿島槍、五竜、少し遠く白馬、妙高、その向こうは、日本海だ！。そして東の雲海上に富士山、甲斐駒ヶ岳が遠く望まれる。皆と登頂の喜びを分ち合った幾つものピーク、思い出の山々に感慨を深くする。30分程山頂に留まった後、往路を引き返しAM9：30山荘に帰還する。

新雪頂く、
燕岳頂上直下の登り



雪の尾根道で真白に羽の色を変えた雷鳥に出会う



山頂近くに在る花崗岩イルカ岩と遠く槍ヶ岳を望む



AM10：00、燕山荘の赤沼さんに挨拶をして、往路と同じルートで下山を開始する。雪斜面の滑落を注意しながら、尾根道を下る。合戦小屋からは、森林帯の急坂を慎重に降り続け、PM1：30登山口に到着する。PM2：00有明荘で昼食を摂り、温泉で汗を流す。PM3：10ここで3名と別れ、松本方面の13名が車に同乗、往路と同じ道を走り、PM4：15松本へ無事帰還、最終解散とする。ご苦労様でした。「初冬の山々の美しさと厳しさを学んだ新雪の燕岳登山講習だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則